

令和4年度 東条学園小中学校 学校評価（年間）

4・・・よくあてはまる 3・・・ややあてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・まったくあてはまらない ()は昨年度

※生徒・保護者の評価結果は、生徒・保護者アンケート質問項目にもとづいたものです。

評価の観点	評価項目	実践目標と成果			評価		
生きてはたらく学力	基礎基本の 確実な定着・学びに向かう力	実践目標	授業目標(めあて・ねらい)を児童生徒と共有し、自らの学習活動の「振り返り」を行うなど、児童生徒のつまずきの解消や系統性を重視した授業を実施する。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	授業目標共有及び振り返りが適切に実施されている。12の研究授業を通じて、前期課程を中心に「どこまで力をつけさせるか」、後期課程を中心に「どのような力をつけてきているか」を知ることができた。	3.3			
		課題と方策	前期課程を中心に授業で「つけるべき力」が足りていない。後期課程を中心に「つけてきた力」を生かせていない。各教科で足りていない、生かせていない点を共有し、授業づくりに努める。	(3.3)			
		教職員(学校)は、授業目標や授業おわりの「振り返り」を行い、前後の授業とつながりのある、わかりやすい授業を工夫している。		3.5 (3.6)	3.4 (3.5)		
	思考力・判断力・表現力の育成	実践目標	「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点に立った授業改善を図る。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	赤沢教授の指摘を受けて、児童生徒の課題を再確認し、「学びのつながり」に加えて「主体的に課題を見つけて行動する姿」「他者との関わりをもとに考えを深める姿」を目指す12の研究授業を実施し、改善について協議できた。	3.1			
		課題と方策	学習内容としてのつながりと、学習スキルのつながりとを混在させたまま研究を進めたが、これらを分けて考える必要がある。	(3.1)			
		教職員(学校)は、ペアやグループでの学習も取り入れながら、より深く考えたり意見を交換したりするような指導をしている。		3.6 (3.6)	3.4 (3.5)		
	ICT活用指導力の向上	実践目標	情報モラル教育を充実させ、ICT機器を活用した効果的な授業づくりを進める。	3.4			
		成果	1人1台タブレット使用に際し、授業での振り返りなど、教科横断的な使用ができた。またICT支援員にお願いし、情報研修を通じて「ムーブノート」の使用についても教職員の理解を深まった。	(3.5)			
		課題と方策	タブレット使用が効果的である場面についての研修を行い、様々な分野で日常的に使用できるようICT支援員と協力し、知識を深める。ICT使用に関するきまりについて、教職員間で連携を図る。		3.6 (3.7)	3.3 (3.3)	
	他者につながる力・ 他を思いやり、互いに高め合う心	体験活動等の充実	実践目標	学園会の中央委員が中心となって、体育大会、学園祭等の学校行事を企画・運営することで、学園生の自治能力を育成する。	教職員	児童生徒	保護者
成果			体育大会では、学園会中央委員が中心となり、企画・運営を担った。今年度は、新演技を取り入れる為に、自分達で内容やルール作りに取り組んだ。	3.5			
課題と方策			第Ⅰステージの児童と第Ⅱ・Ⅲステージの児童・生徒がつながれる、定期的な活動を取り入れる。	(3.4)			
教職員(学校)は、児童生徒に役割を与えたり、事前事後も含めて達成感を味わえたりするような体験活動を実施している。(体育大会・学園祭・加東遺産めぐり・自然学校・「トライやる・ウィーク」等)				3.7 (3.6)	3.7 (3.6)		
道徳教育の充実		実践目標	自分の問題として「よく考え」、その考えをより深めていくために級友と「議論する道徳」をめざした授業づくりを推進する。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	ペアトークやICT機器を活用して補助発問、中心発問をよく考えられるようになった。仲間の意見に耳を傾けたり注目したりして、自分の経験を踏まえて考えている振り返りが比較的多くみられるようになった。	3.0			
		課題と方策	児童生徒の発言を拾い、まとめ、そしてそこから更に問い返す授業者の技術の向上が課題である。深い教材研究や板書計画、ローテーション授業の取り入れ、講師招聘などを通じて授業力を高め、児童生徒が意見を積極的に述べる「議論する道徳」を目指す。	(3.0)			
		教職員(学校)は、「私たちの道徳」等も活用しながら、級友等と論議することで、豊かな心を育成するための指導をしている。		3.5 (3.6)	3.5 (3.4)		
平和学習		実践目標	系統的なつながり平和学習を通して、平和の尊さ・大切さを考え、行動する力を育成する。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	学んだことを他学年へ発信したり、意見の交流をすることで、戦争の悲惨さ平和の尊さについて考えを深めることができた。学習のまとめとして、6、9年生合同による発表を学園祭で行った。平和な世の中の実現を目指し、他学年や保護者へ発信するため、お互いに協力し合い、創意工夫した発表を行うことができた。	3.7			
		課題と方策	平和な世の中での担い手として、世界情勢に関心を持ち、自ら考え、行動できる児童生徒を育成できるよう、今後も情報を共有し、様々な角度からアプローチしていく。	(3.3)			
		教職員(学校)は、平和の尊さ・大切さを考える機会を設定し、平和な状態を維持するためにどうすれば良いか指導している。(6年広島校外学習 9年沖縄修学旅行 等)		3.4 (3.4)	3.6 (3.5)		
健康な心身 安全意識	健康や体力の増進	実践目標	系統的な体幹トレーニングを実施し、体力・運動能力の向上や正しい姿勢を身に付けさせ、けがの予防に努める。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	授業内でのランニング、筋力トレーニングに加え、縄跳びやストレッチを取り入れたことによって体力・運動能力を向上させることができた。	3.3			
		課題と方策	授業内の取り組みだけでは、けがをしない体をつくるには難しいため、家庭での体力・運動能力の向上のための取り組みを考える必要がある。	(3.2)			
		教職員(学校)は、保健体育の授業や部活動を通して健康や体力の向上のための指導をしている。(体育大会・マラソン大会等を含む)		3.7 (3.7)	3.6 (3.6)		
	健康な心身の育成	実践目標	定期的な困ったことカードや教育相談の実施により心のケアの充実に努める。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	日々、児童生徒が感じている困り感を細かく把握することができた。	3.2			
		課題と方策	各学年の発達段階によって書く内容に大きく違いがあり、一通りの指導法では、解決が難しい。それぞれの学年の発達段階に合わせた指導が必要である。	(3.5)			
		教職員(学校)は、日常生活や教育相談等で、親身になって話を聞いたり相談にのってくれたりしている。(学習計画帳点検、悩みアンケート、日常的な教育相談、教育相談週間、スクールカウンセラーによる相談等)		3.4 (3.4)	3.3 (3.3)		
	危機管理の充実	実践目標	地域、保護者、学校が連携し、見守り活動の配置図や110番の家の設置を行い、通学路の見える化を図り、危険予測ができ、自分の命を守る能力を身に付けさせる。	教職員	児童生徒	保護者	
		成果	110番の家の設置が終わり、通学路ののぼりが上がっており、通学路の見える化が図れた。また、それに伴う教師の指導により、児童生徒が自らの命を守る能力の向上につながると思われる。見守り隊のピブスもでき、児童生徒も立ち番をして下さる地域の方々を認識しやすくなった。	3.4			
		課題と方策	横断歩道の正しい渡り方を長期休業期間前などに適宜行い、児童生徒へ周知する。また、事故が多い道路や危険な通学路での自転車の乗り方について児童生徒へ注意喚起を行う。	(3.4)			
		教職員(学校)は、交通事故等がないように安全安心を確保するための指導をしている。(交通安全教室・110番の家の設置・集会やホームルームの話、PTAによる登下校指導等)		3.6 (3.7)	3.5 (3.5)		

心通う集団づくり、積極的な生徒指導	教師の協働した指導や支援	実践目標	SCやSSWを含めた校内学園生の支援体制(ケース会議や学年層会議)を充実させ、福祉・医療機関等と積極的な行動連携を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	SCやSSW, 生活補助員、担任等と情報交換をすることができた。生徒指導委員会(不登校)でも、情報共有をすることができた。また、別室登校をうまく活用し、教室復帰できるケースがみられた。	3.6 (3.4)		
		課題と方策	SCやSSWとの個別の相談だけでなく、月1回、水又は木曜日に情報共有をする時間を設定し、さらに情報共有や対策を練る。また、それを生かし、校内支援体制を充実させる。			
	児童生徒の内面理解と人間関係づくり	実践目標	QUテスト等を利活用して、児童生徒の内面理解に努め、構成的グループ・エンカウンター等を活用した人間関係づくりを計画的に実施し、安心できる学校づくりを進める。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	QUテスト(4~9年)、分析シート(1~3年)を基に各担任が分析し、要支援群の児童生徒に対する対応を具体的に相談できている。特に「Q-Uの結果と普段の様子とで印象が違う」生徒を全体で共有し、生徒の内面を想定した先手の指導を打つことができた。	3.4 (3.4)		
		課題と方策	計画的な指導という面ではまだ十分ではない。Q-Uなどで内面をつかんだ結果を生かして学園全体に必要な指導や研修を模索する必要がある。			
		教職員(学校は)、児童生徒をよく理解し、「3つのステージのつながり」のある集団をつくろうとしている。(体育大会、学園祭、QUテスト、縦割り活動、学園会活動等)				3.4 (3.5)
	自己管理能力の向上	実践目標	完全ノーチャイムを実施し、時間を常に意識させ、自己管理能力の向上を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	児童生徒が時間を意識するようになり、自分達で時間を守ろうとすることで、「立志」の基本となる力を養うことができた。	3.0		
		課題と方策	昼休みが終わった後の掃除の時間の始まりが前期・後期ともに曖昧になっている。時間通りに掃除場所に到着していない児童生徒に声掛けを行う。			
		教職員(学校)は、完全ノーチャイムを実施し、時間を意識して自主的に生活する習慣を指導している。				3.7
	特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援	実践目標	個別の教育支援計画等の見直しを実施し、本人・保護者の願いを中心に据えてライフステージに応じたきめ細かく適切な支援を行う。	教職員	児童生徒
成果			児童・生徒の実態把握に努め、障害の特性を理解した上で、個別の教育支援計画を作成し、本人・保護者の願いを中心に据えてライフステージに応じた適切な支援を提案して実行することができた。	3.3 (3.3)		
課題と方策			ステージを超えて児童生徒の理解に努め、職員、保護者、児童生徒間の啓発と校内支援体制を充実させる。			
教職員(学校は)児童生徒の内面理解に努め、一人一人の特性に応じた支援や指導をしようとしている。(家庭訪問、三者面談、ユニバーサルデザイン、サポートファイル、通級指導等)				3.6 (3.6)	3.3 (3.4)	
切れ目のない生徒支援		実践目標	加東市発達サポートセンター「はびあ」と連携した切れ目のない児童生徒支援・家庭支援をきめ細かく適切に行う。また、デリコラ(巡回相談)等を積極的に活用する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	加東市発達サポートセンター「はびあ」と連携し、発達相談やデリコラ(巡回相談)等を実施できた。また、指導内容を生かした切れ目のない児童生徒支援・家庭支援をきめ細かく行うことができた。前期と後期の特別支援学級の交流により、お互いの理解が進んだ。	3.5 (3.5)		
	課題と方策	来年度の教育課程や教育支援計画の作成に向け、個々の課題をつかむ。前期と後期の連携を図り、お互いの教育課程の理解を一層進め、児童生徒間の交流を進めるための手立てを探る。				
地域に開かれた学校づくり	地域での展示、地域行事やボランティア活動	実践目標	地域での作品展示、地域行事やボランティア活動への参画など東条地域の担い手を育む教育を推進する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	東条地域3カ所において校外作品展示を行った。天神地区花植え、東条地域子ども夏まつり、東条ミニ文化祭等に多くの子どもが参加した。また、木管コンクールに後期課程の生徒が積極的にボランティアとして参加した。	3.8		
		課題と方策	子どもたちが、自主的に地域行事やボランティア活動に参加していくように推進していく。地域・PTAと連携し、地域行事の情報を収集し、発信していく。			
	教職員(学校)は、地域への作品展示、地域行事やボランティア活動への参加を促している。(校外作品展示、学校前の花植え、春・夏・秋・冬の子ども祭、木管コンクール等ボランティア等)				3.3	3.5
	地域との協働	実践目標	学校運営協議会、地域学校協働本部を両輪として、学園生の健全育成を中核に、学校と地域が一体となって協力しながら教育活動を行う。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	コーディネーターが機能し、学校運営協議会、地域学校協働本部が両輪となって「通学路の見える化(東条110番の家の設置、ピブス、PTA立ち番)等」が行われた。	3.6 (3.3)		
課題と方策		地域住民の参画について、促進を進めていく。そのために教師自身が地域の出向くことを心がける。				
働きやすい職場環境づくり	生徒と向き合う時間の確保	実践目標	学校の業務内容を見直し、効率化を図ることで、児童生徒と関わる時間を確保する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	ICTを活用した教職員の連絡系統を確立したことで、学年総務の打合せ回数が減った。	3.0 (3.1)		
		課題と方策	全教職員が共通理解できていないこともある。学年総務等から教職員への連絡を徹底するために、ICTの活用方法を探る。また、朝の職員打合せなどを効率化し、意思疎通と共通理解を推進する。			
	定時退勤日	実践目標	留守番電話の設置や毎週1回の「定時退勤日」を保護者等へ学校だよりや様々な機会を通して周知することにより、教職員の共通理解のもと働き方改革の確実な実施を図る。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	保護者や地域の方に、留守番電話の時間帯が浸透してきた。その時間帯の電話対応が減少した分、別の業務に時間をかけることができています。定時退勤日は、教職員同士のお互いの声かけと意識が高まってきており、実施できた。	3.4 (3.5)		
		課題と方策	生徒指導や保護者対応等があった場合や緊急の対応で完全実施できない日があった。臨機応変に別日に設定するなど推進していく。			
	ノー部活デー	実践目標	部活動の練習計画表を校内に掲示することで、学園生や教職員に周知を図り、「ノー部活デー」を確実に実施するとともに、教職員のワーク・ライフ・バランスの保持に配慮する。	教職員	児童生徒	保護者
		成果	練習予定表を掲示することで、前期課程の児童も目にするようになり、クラブ活動や、部活動に興味を持つ子も出てきた。	4.0 (4.0)		
課題と方策		複数顧問での部活指導がまだまだ定着していない。放課後の活動時間が短くなっているため、クラブ活動も上手く活用しながら多くの先生方にも関わってもらい、東条学園らしい指導体制をとっていきたい。				

【生徒・保護者への質問項目まとめ】

	番号	質 問	生徒	保護者
生徒活動	13	自分は、明るくさわやかなあいさつをしている。	3.2 (3.2)	3.0 (3.0)
	14	自分は、友達を気遣い、思いやりを持って行動している。	3.6 (3.5)	3.4 (3.4)
	15	自分は、学校や社会のきまりを守っている。	3.6 (3.6)	3.4 (3.4)
	16	自分は、好ましい友達関係があり、楽しく登校している。	3.7 (3.7)	3.5 (3.5)
	17	自分は、意欲的に学習に取り組んでいる。	3.2 (3.2)	3.0 (3.1)
	18	自分は、先生や友達と上手くコミュニケーションをとっている。	3.5 (3.5)	3.2 (3.2)
家庭生活	19	家庭では、あいさつや生活態度などについて教えてくれる。	3.5 (3.5)	3.3 (3.3)
	20	家庭では、学校の話をよくしている。	3.3 (3.3)	3.3 (3.3)
	21	地域の方は、地域全体の子どもに関心を持っていてくれる。	3.4 (3.3)	3.0 (3.1)
	22	地域と家庭は、協力して子どもを育てようとしてくれる。	3.6 (3.6)	2.9 (2.9)

()内は昨年度の数値